

第2学年音楽科 「合体！リズムと音の重なり」

～拍にのってつくってあそぼう～

学習指導者 高口 佳子

題材の概要・子供と共有した目標 自らの目標に向かう姿

既習の音符や休符を使ってつくった多様なリズムと、四和音の音の重なり、音楽の仕組みを組み合わせてながら音楽づくりを行った。その際、自分たちがつくる音楽がよりよいものになるように、思いを表現できそうなものから取り組み、発表会をしようという題材を通した目標を設定した。

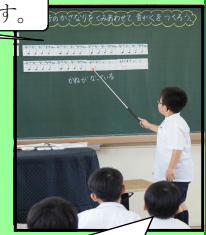
見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

前時までにリズムと音の重なりをものさしに表し、リズムと和音を組み合わせると面白い音楽になりそうだと学習課題を設定した。そこで、教師がつくった8小節の音楽と思いを提示し、どのように感じるかを問い、それを手掛かりに題名を付けた。音楽を完成させた後、題名を付けよう確認した。

この部分に、音楽の仕組みの「変化」があります。

前時の活動を想起し、本時でも自分たちのグループの思いに合う音楽をつくって演奏しようという意欲を高めていた。また、教師がつくった音楽について感じたことを話し合い、様々な題名を付けていった。

チクタクと時計みたいで、「12時の時計」という題名がいいと思います。

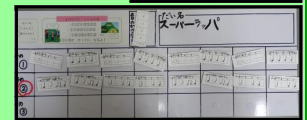
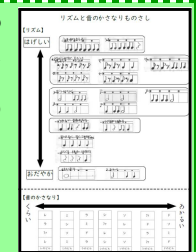


リズムと音の重なりを組み合わせる音楽をつくろう

行動 諦めずに試行錯誤する姿

このような活動を通して、「思いに合う音楽にするにはどうしたらよいのかな」と問いかけて、「思いを表現できそうなものから取り組む」という方法の想起を促した。子供たちを5グループに分け、それぞれの練習場所を用意した。各グループにリズムが示されたパーツと、パーツを自由に配置できる台紙を配布した。台紙には8小節の音楽を三つづつ作ることができるよう枠を設け、思いを表出しやすくした。その後、自分たちの思いが最も表現できたものを選ぶように伝え、複数のリズムの中から一つを選択して題名を付けることができるように促した。

グループで話し合い、これまでにつくったリズムの中から二つ、和音の中から一つを「リズムと音の重なりものさし」から選んで音楽をつくっていった。実際に演奏してみる時には、聴き役や指示役などを分担しながら、様々な音楽をつくっていった。また、自分たちの音楽を聴いて自由に題名を付けていった。



今はここを吹いているよ。一つ目はウサギが跳ねている感じがしたね。もう一回吹いてみよう。



二つ目の音楽はラッパが鳴っているみたいに聴こえるね。

題名は「スーパーラッパ」にしよう。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿

題材を通した振り返りカードを用いて全員で思いを表現した音楽づくりができたかを振り返った。振り返りの発表後には一つのグループの題名だけを発表し、他のグループはどんな音楽をつくったのか興味をもたせ、発表会への意欲をつないだ。

グループで音楽をつくったことによさを感じていた。また、他のグループがどんな音楽をつくったのか興味をもっていた。



前は一つしかできなかったけれど、今日は二つできてうれしかったです。勉強したかがありました。発表会で吹きたいです。

考察 (○：成果、▲：課題)

- 「穏やか」「激しい」という思いに合ったリズムの選択は「リズムのものさし」を活用することで容易に行うことができ、音楽を完成させたことで達成感を味わうことができた。
- ▲ 「思い」の設定とグループ内での共有の場が不十分だったため、思いに向かって音楽をつくろうと試行錯誤する姿が見えづらかった。「穏やか」「激しい」だけではなく子供たちの「どんな音楽にしたいか」という思いも取り入れた音楽づくりをするとよかった。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧いただけます。



